

編集後記

読者の皆様も、人工知能（AI）が目覚ましい進歩を感じていることと想います。PC やスマホのアプリケーションでも AI のアシスタント機能を備えるものが増えています。便利であるがゆえに、子供が使用することに対して推進派と反対派が存在し、暫定的なガイドラインが作成されました。AI の使用により子供の成長を妨げるのは良くない影響ですが、賢く使用することで子供の成長を促進することが期待できます。

話題に事欠かない AI ですが、医学の分野でもその影響が急速に広がっています。AI による画像解析、病理診断支援、臨床診断支援、薬物開発支援、治療選択支援、AI ガイド手術、転帰予測など、多岐にわたって実用化が進みつつあります。本年 1 月より発刊された NEJM AI が話題になりました。臨床神経学を含め、論文の著者として生成系 AI（大規模言語モデル）を認めないとする雑誌も増えています。しかし、論文作成や添削、査読において、AI を有効に活用していくことが重要になっていく可能性が高いと感じています。そのためには、独自の研究に関連する

指針を守って論文にすることが必要です。

AI 使用により論文のプロセスが効率的になると推測されますが、AI には誤りが含まれることも事実です。AI の使用が許可される環境でも、最終的な判断は人間が行わなければなりません。AI の著作権に関する考え方も提示されていますが、著作権侵害の要件である類似性や依拠性をどのように示すかも解決されていないと思います。AI が作成した論文を判定する AI が利用できるようになっていますが、まだ精度に限界があるようです。多くの問題が未解決である AI と論文の関係ですが、10 年後にはこの関係が進化していることは疑いないと感じます。臨床神経学の投稿規定（2024 年 4 月 1 日改定）で「生成系 AI（大規模言語モデル）使用について」が追記されました。この規定を守りながら AI を有効活用し、論文投稿につなげることも選択肢になっています。今後も多くの論文投稿をお待ちしております。

（古賀政利）

〈編集委員〉

編集委員長 小野寺 理 編集副委員長 三澤 園子
編集幹事 石浦 浩之 漆谷 真 杉江 和馬
編集委員 今井 富裕 木下 真幸子 古賀 政利 櫻井 圭太 柴田 護
下畑 享良 鈴木 匡子 辻野 彰 坪井 義夫 中嶋 秀人 新野 正明

「臨床神経学」 第64巻 第9号 2024年9月1日発行
編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 西山 和利
印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>